

菊池溪谷の植物多様性

菊池溪谷は植物の多様性で有名。4km の溪谷の端から端まで標高差があるため、気候条件は多岐にわたる。ビジターセンターのある溪谷の下端は標高 500m ほどだが、溪谷の始まりとされる地点は標高約 800m。溪谷を登っていくと、植生は常緑広葉樹からケヤキやカエデなどの落葉広葉樹へ、そして寒冷な上流部ではブナ林を主とした森林へと徐々に変化していくのが分かる。

ビジターセンター周辺の暖かい森でよく見られる樹木には、濃い緑色の葉は香りがよく、光沢があり、3 本の独特な葉脈を持っている**ヤブニツケイ** (*Cinnamomum yabunikkei*)、硬い革質の葉の裏側が白っぽいことからその名がついた**ウラジロガシ** (*Quercus salicina*)、3 月から 4 月に赤い無花果の花を群がり咲かせる**イスノキ** (*Distylium racemosum*) などがある。

散策路でよく目にするのは、川辺の湿潤な環境に生育し、溪谷内の木の枝や岩に 20cm ほど成長する糸状の明るい緑色の**キヨスミイトゴケ** (*Barbella flagellifera*) と、湿った岩を好み、大きなタバコ葉に似た葉を持つ**イワタバコ** (*Conandron ramondioides*) である。イワタバコは夏に薄紫色の星形の花を咲かせる。